



## 日本最大級の物流センターが続々と建設中の流山 首都圏と関東一円、東北一円を結ぶ物流中継基地



流山の物流基地建設は規模があまりにも大きすぎ、ワンショットで撮影するのがとても難しい

大きな池の向こうに建設途中の建物があり、建設重機の長大なアームが空に向かって伸びている。一見のどかなこの写真は、千葉県流山市で現在工事が進む、国内最大級とされる物流センター建設工事「GLP流山プロジェクト」（日本GLP）のごく一部の現場風景だ。

GLP流山プロジェクトが完成（竣工予定は2023年6月）すると、センターの建物全8棟、総延べ床面積90万㎡（東京ドーム約19個分）という、実に広大な物流基地が誕生することになる。

流山市は実際、物流基地をつくるには非常に至便な場所に位置している。東京都心部からも県都・千葉市からも25km圏内にあり、この人口減少時代に人口を着々と延ばしていることでも、よく知られている。

流山市と周辺エリアだけでも潜在労働力はかなり豊富だ（しかも子育て世代、働き盛り世代の市民が多い）。それに加えて、秋葉原

から直通の《首都圏新都市鉄道つくばエクスプレス》や、人口規模の大きい埼玉県の県都・さいたま市（大宮駅）や千葉県で進境著しい柏市とは東武鉄道《アーバンパークライン》（旧・東武野田線）で直結しているため、東京都・千葉県・埼玉県の1都2県からの通勤の便も抜群にいい。

道路アクセスの良さはもちろんである。まず常磐自動車道の流山ICを通じて、首都圏および東北地方一円へのアクセスがいい。

東京都中央区から千葉県、福島県を経由し、仙台市に至る一般国道6号線も市内を貫流している。その他周辺地域への各種道路も充実しており、まさに物流基地を構築するにはうってつけの周辺環境を有している。そんな流山市では現在、大和ハウスの総面積32万㎡の物流センターも建設中だ。

かつては利根運河や江戸川の舟運で栄えた流山市。そのアクセスの良さは、現代の高速交通時代にも引き継がれている。（未知草）